

留学生のための 感染症対策マニュアル

教育機関での
「海外への留学生」と「外国人留学生」の
感染症対策



国立研究開発法人日本医療研究開発機構

新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業

「昆虫媒介性ウイルス感染症の世界的流行状況に基づく我が国の総合的対策に資する開発研究」

はじめに

国際化が進む中、日本の教育機関では「海外への留学生」や「海外からの外国人留学生」が増加しています。海外には感染症が日本よりも流行している国が多く、教育機関では留学生の健康を守るため、さらには国内への感染症の流入を防ぐため、十分な感染症対策を実施することが求められています。この冊子では、教育機関が「海外への留学生」や「外国人留学生」に実施いただきたい感染症対策について解説します。

目次

1	海外への留学生の感染症対策	1
2	外国人留学生の感染症対策	3
3	海外医療関係の資料集	5



1 海外への留学生の感染症対策

● 海外への留学生の状況

日本学生支援機構の調査によれば、2019年度は日本から海外への留学生が115,146人にのびりました。留学先は、米国、オーストラリア、カナダ、イギリスなどの先進国とともに、韓国、台湾、フィリピンなどのアジア諸国が多くなっています。

● 先進国に留学する場合

先進国に留学する場合、学生が留学先で感染症にかかるリスクはあまり高くありません。しかし、留学先の学校が予防接種や結核の検査などの入学前実施を求めてくることがあります。予防接種としては、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、髄膜炎菌性髄膜炎、B型肝炎、成人用三種混合（Tdap）などが対象になります。既に接種を受けているかどうかは、本人の母子手帳などで確認しましょう。規定回数の接種を受けていない場合は、出発までに終了することが必要になります。



● 発展途上国に留学する場合

アジアなどの発展途上国に留学する場合、留学先の学校が予防接種などを求めてくることは、あまりありません。その一方で、学生が留学中に感染症にかかるリスクが高くなるため、ワクチンで予防できる感染症については出国前に接種を受けておくことを推奨します。発展途上国でかかりやすい感染症を表1に示します。

表1. 発展途上国の滞在者にリスクのある感染症

感染経路	感染症	1か月間滞在した場合にかかる頻度*	ワクチンで予防出来るか？
経口感染	旅行者下痢症 A型肝炎	20～60% 0.04%	× ○
昆虫媒介	マラリア デング熱	0.2～3% 1%	× △(日本で未承認)
性行為感染 (医療行為も)	B型肝炎 HIV感染症	0.005% 0.002%	○ ×
動物媒介	狂犬病	0.4% (疑う動物に咬まれる頻度)	○
飛沫感染	インフルエンザ	1%	○

※出典：Steffen et al. Journal of Travel Medicine 15: 145-146, 2008

● 教育機関が「海外への留学生」に行ってほしい感染症対策

- ☐ 留学先の国や学校が求めている予防接種や検査について情報提供する。
- ☐ 留学先で流行している感染症とその予防方法について情報提供する。
- ☐ 留学中に体調を崩した場合に受診する現地医療機関について情報提供する。
- ☐ 出国前にトラベルクリニックなどで予防接種を受けるように指導する。
- ☐ 携帯医薬品の準備を指導する。(表3参照)
- ☐ 帰国後に発熱や下痢があれば医療機関を受診するように指導する。

② 外国人留学生の感染症対策

● 外国人留学生の状況

日本学生支援機構の調査によれば、2019年度は海外からの外国人留学生が279,597人にのびりました。出身国は中国、ベトナム、ネパールなどのアジア諸国が多く、日本滞在中に感染症を発病する者も少なくありません。

● 外国人留学生の感染症

外国人留学生が日本滞在中に発病する感染症としては、結核が注目されています。日本国内で結核の新規患者数（20歳代）は2021年に930人が報告されており、この約7割が外国籍の患者でした¹⁾。麻疹、風疹、水痘など空気感染や飛沫感染をおこすウイルス疾患にも注意が必要です。国立国際医療研究センターの調査では、2013～16年までに15人の外国人水痘患者が受診しており、このうちの7人がベトナムからの留学生でした²⁾。

1) 厚生労働省 2021年結核登録者情報年報集計結果

2) 病原微生物検出情報 37:164. 2016



外国人留学生の感染症として、蚊に媒介されるデング熱やマラリアなどの感染症にも注意が必要です。とくに、日本はアジア諸国からの留学生が多いため、今後はデング熱の患者が増加すると予測されています。日本国内にはデング熱を媒介するヒトスジシマカが棲息しており、輸入例が増えると国内流行を起こす可能性もあります。



注意 外国人留学生が感染症を発病しやすい時期
入国して間もない時期と、母国に一時帰国し再入国し
た後が多くなります。

●教育機関が「外国人留学生」に行ってほしい感染症対策

- ☐ 入学時に健診で結核などの感染症にかかっているかを確認する。
- ☐ 入学時に麻疹、風疹、水痘などの予防接種を受けているかを確認し、未接種で過去にかかっていなければ、接種を検討する。
- ☐ 入学後に発熱、咳、下痢など感染症を疑う症状が続く場合は、学校側に申告するよう指導し、必要なら医療機関を受診させる。
- ☐ 一時帰国する場合は、母国で感染対策をとることや、再入国後に体調不良があれば医療機関を受診するように指導する。
- ☐ 毎年1回は健診を受けさせ、結核などの感染症にかかっているかを確認する。

③ 海外医療関係の資料集

表2. 海外医療関係の情報サイト

■ 全体

サイト名	URL	内容
海外渡航と病気	http://www.tra-dis.org/	海外で流行している感染症の解説
厚生労働省検疫所	http://www.forth.go.jp	海外の感染症流行情報 海外渡航者の推奨予防接種情報
東京医科大学病院 渡航者医療センター	http://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/shinryo/tokou/	海外の感染症流行情報

■ 海外留学生向け

サイト名	URL	内容
外務省 世界の医療事情	http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html	海外の医療機関等の情報
日本渡航医学会	https://plaza.umin.ac.jp/jstah/index2.html	国内のトラベルクリニック情報
日本小児科医会 国際委員会	https://www.jpa-web.org/about/organization_chart/international_committee.html	国別の定期予防接種情報 (留学先の学校が同等な接種を求めることもある)

■ 外国人留学生向け

サイト名	URL	内容
厚生労働省・外国人患者を受け入れる医療機関	https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_05774.html	国内で外国人患者を受け入れる医療機関
日本医療教育財団・外国人患者受入れ医療機関認証制度	http://jmip.jme.or.jp/	国内で外国人患者を受け入れる医療機関

表3. 携帯医薬品リスト

内服薬		外用薬	
薬品名	効能	薬品名	効能
総合感冒薬	軽いカゼ	皮膚の軟膏	皮膚炎
解熱鎮痛剤	発熱、頭痛・歯痛	痔の座剤	痔
抗ヒスタミン剤	鼻水、乗り物酔い	うがい薬	カゼ
せき止め薬	咳	点眼薬	結膜炎
健胃剤	胃のもたれ	消毒薬	ケガ
制酸剤	胃の痛み	湿布薬	打撲
整腸剤	下痢		
下剤	便秘		
衛生用品など			
体温計、アイスノン、ガーゼ、脱脂綿、包帯、綿棒、バンドエイド、生理用品、コンドーム、ピンセット、毛抜き、爪切り、はさみ、耳かき、浣腸、スポーツドリンク（粉末）、昆虫忌避剤、殺虫剤			



留学生のための感染症対策マニュアル ～教育機関での「海外への留学生」と「外国人留学生」の感染症対策～

2023年2月発行

監 修：濱田篤郎(東京医科大学)

発 行：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業
「昆虫媒介性ウイルス感染症の世界的流行状況に基づく我が国の総合的対策に資する開発研究」
(研究代表者 国立感染症研究所 林昌宏)

連絡先：〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1 東京医科大学病院 渡航者医療センター
TEL: 03-3342-6111 電子メール: travel@tokyo-med.ac.jp

制 作：(株)アイワエンタープライズ